

2021 年度 個人研究実績・成果報告書

2022 年 4 月 25 日

所属	国際教養学部	職名	准教授	氏名	常見陽平
研究課題	日本経済団体連合会の新卒一括採用に関する方針の研究				
研究キーワード	新卒一括採用 人的資源 管理論 学校から職業への移行	当年度計画に対する達成度	3.概ね順調に研究が進展し、一定の成果を達成したが、一部に遅れ等が発生した		
関連するSDGs項目	4. 質の高い教育をみんなに	5. ジェンダー平等を実現しよう	8. 働きがいも経済成長も	該当なし	
<p>1. 研究成果の概要</p> <p>文献調査、聞き取り調査をもとに、日本経済団体連合会（以下、経団連）に所属する企業（所謂、経団連企業）の新卒一括採用に関する方針や、実態の変化を捉えることはできた。ただ、当初、目標としていたこの研究テーマに関する具体的なアウトプットには至らなかった。</p> <p>先行研究や、官庁、就職情報会社の発表する新卒採用に関連したデータをとりまとめ、経団連が事実上の就職活動のスケジュールとされていた「採用選考に関する指針」の発表を中止してから、政府が採用スケジュールを企業に通達している。このスケジュールが存在しているのにも関わらず、採用活動が早期化していることが明らかとなった。新型コロナウイルスショックの影響により、オンラインによる採用活動が広がったことや、若年層に対する強い求人ニーズなどが確認された。</p> <p>経団連が「採用選考に関する指針」の発表を取りやめた背景には、この影響を事実上受けない外資系企業が、日本企業よりも早い時期に採用活動を行っていることに対する危機感があった。大学生の外資系企業志向について検証すべく、全国の大学生協における就職対策本の売上データを入手し、特にこれらの企業への志望者が多いと見られている選抜度の高い大学において、外資系企業への就職対策のマニュアル本が売れているという実態を確認した。</p> <p>なお、本研究の周辺の問題として、新型コロナウイルスショックによる採用活動の影響についてとりまとめ、論文として連合総研「DIO」にて発表した。新型コロナウイルスショックの影響により求人数は減少したものの、大きな低下とはならず、採用活動のオンライン化が進んだことを確認した。また、企業の人事部長への聞き取り調査を繰り返し、新卒一括採用の対象や時期、手法が多様化しつつも、存続していることを確認した。</p> <p>2022 年度においては研究の停滞を打破し、成果を論文で取りまとめたい。また、成果の書籍化も目指したい。</p> <p>2. 著書・論文・学会発表等（査読の有無及び海外研究機関等の研究者との国際共著論文がある場合は必ず記載）</p> <p>【著書・論文（査読なし）】</p> <p>単著</p> <p>「新型コロナウイルスショックの大卒者の就職活動に関する影響に関する考察」連合総研「DIO」2021 年 7,8 月号 p4-9</p> <p>共著</p> <p>『博報堂生活総研のキラーデータで語るリアル平成史』星海社</p> <p>『現代用語の基礎知識 2022 年度版』自由国民社</p>					

3. 主な経費

資料の効率的な閲覧のために、パソコン用ディスプレイを購入した。メモを記録し、デジタル化するためにタブレットを購入した。その他、書籍や文房具の購入に活用した。

4. その他の特筆すべき事項（表彰、研究資金の受入状況等）

【その他の活動】

いしかわ UI ターン応援団長（石川県）

朝日新聞デジタルコメントプラスコメンテーター（朝日新聞社）